群馬県のニホンジカ被害対策と適正管理

講師：群馬県 鳥獣被害対策支援センター 片平篤行

群馬県では、ニホンジカの高密度化・広域化による問題が発生しています。群馬県の保護管理計画では、農林業被害の軽減、生態系の保全、個体群の適正な管理が目指されています。ニホンジカ適正管理計画では、科学的・計画的な管理により生息密度を低減させ、農林業被害の減少及び自然生態系の保全を図りつつ、地域個体群の健全な維持を目的としています。

この講義では林業におけるニホンジカの被害について報告します。シカの高密度化により、間伐施業後の植生は明るく植生の回復が期待されますが、シカの不嗜好性種に限られています。防除対策として使用する忌避剤は味覚刺激のため口に入れる必要があり、角擦りには効果がないことが指摘されています。そのため、被害防除対策としては、単木保護、薬剤散布、柵などを場所により選択して実施しています。

個体群管理のためのモニタリング項目には、SPUE、CPUE、糞塊調査、捕獲数などがあります。ニホンジカのモニタリングでは、糞塊法が2013年から継続して行われており、調査結果が安定しておりデータの評価がしやすい利点がありますが、調査結果のみで密度算出はできないという欠点があります。

群馬県の取り組み事例として嬭恋村では、ニホンジカ被害が急激に増加しており、被害額の削減が急務となっています。関係機関による意見交換、GPS首輪による行動圏調査、捕獲適地調査、植生調査が実施され、広域捕獲計画が作成されました。GPS首輪によるニホンジカ行動軌跡は、春から秋にかけて群馬県側を利用し、冬には長野県側を利用していることが明らかとなりました。

広域捕獲の方法としては、広域フェンスの外側で畑に出る前に捕獲し、フェンス内側(畑)では通常の有害捕獲を実施します。捕獲手段としては、くくりわなの使用や捕獲通報装置、捕獲報告アプリを用いて効率化を図っています。